

京葉介護福祉専門学校
学校自己評価報告書
(令和7年度)

令和8年（2026年）3月
学校法人D o t 学園
京葉介護福祉専門学校

学校の現況

1. 学校名

学校法人D o t 学園 京葉介護福祉専門学校

2. 所在地

〒260-0834

千葉県千葉市中央区今井2-13-1

3. 沿革

高齢社会の到来により、介護支援を必要とする人の数は飛躍的に増大して来ていると共に少子化・核家族化の進行により、介護施設への入居希望者も増加の一途をたどっている。一方、介護施設の現場では、介護に関する専門的な知識・技能を有する人材を確保することが緊急の課題となっている。このような社会情勢のもとで、介護現場が求めている有為な人材を養成し、社会福祉の発展に寄与することを意図して、平成13年に学校法人清峯学園が設立した。令和5年、京葉介護福祉専門学校の運営を学校法人D o t 学園が引き継いだ。

4. 概要

法人認可 : 昭和50年2月28日

専門学校認可 : 平成13年3月2日

学校開校 : 平成13年4月1日

定員変更認可 : 平成18年3月3日

定員変更認可 : 平成20年4月1日

学校運営引継 : 令和5年4月1日

設置者 : 学校法人D o t 学園

理事長 : 垣本 祐作

学校法人D o t 学園 京葉介護福祉専門学校 R7年度自己点検評価 (2026年3月24日実施)

(評価: 適切・・・3、概ね適切・・・2、不適切・・・1)

大項目	小項目	評価の基準・内容	自己点検評価	現状と課題
1. 教育理念・目的・目標	1. 教育理念、目的及び目標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	2	現状： 教員採用時から教育理念を説明し、共通の目的・目標のもとに各教員が学校業務に従事することができている。 課題： 理念浸透や再認識のための取り組みが仕組みとして構築されていない点は不足事項であり、早期に解消する必要がある
2. 教育課程、教育の実施、学修成果	1. 教育課程の編成と授業科目	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。【注：外国人留学生キャリア形成促進プログラム】促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。	2	現状： 養成する人材像を実現すべく、段階的・系統的な教育課程編成と実施方針を策定し、適切なカリキュラムを運用しているが、外国人留学生のためのキャリア形成促進プログラムの時間数には不十分さがある。 課題： カリキュラムは概ね適切に機能しているが、現場の最新ニーズや留学生の多様な習熟度に応じた教育課程の柔軟な見直しが必要である。
		外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進等に関する科目を配置していること。	1	現状： 留学生の就職に向け、日本社会の理解を深める科目を一部配置している。しかし、実践的な就労ニーズに対応する内容や、十分な授業時間の確保には至っていない。 課題： 日本の職場文化やビジネスマナー等、より実践的な内容へ科目を見直す必要がある。また、十分な学習時間を確保するカリキュラムへの再編を行うことが急務である。
	2. 教育の実施	授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3	現状： 各科目の特性に応じた最適な授業形態と教材を用いて実践的な教育を展開している。また、明確な基準に基づく客観的で厳正な成績評価を適切に実施できている。 課題： 現状の高い水準を維持しつつ、最新の現場ニーズやICTを取り入れた教材の継続的な更新が必要である。併せて、評価基準のさらなる客観性の向上を継続的に図る。
	3. 単位・卒業認定	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	3	現状： 目的や育成する人材像を実現するための明確な卒業認定方針を定め、修得すべき能力や資格要件に基づき、厳正かつ適切な卒業認定を確実に実施している。 課題： 現状の厳正な認定水準を維持しつつ、社会のニーズや法改正等に合わせ、認定方針や評価指標を継続的に見直し、客観性をさらに高めることが求められる。
4. 学修成果目標の達成状況		卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	3	現状： 卒業認定方針に基づき、学科ごとに資格取得や専門知識・技能修得の明確な目標を設定しており、学生は高い水準でその目標を達成できている。 課題： 現状の高い目標達成水準を維持しつつ、業界の最新動向や社会ニーズに合わせて修得目標を定期的に見直し、教育水準をさらに向上させる必要がある。
		学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	3	現状： 学生の希望進路を実現するための明確な目標を設定し、個別の手厚いサポートを実施することで、極めて高い水準でその目標を達成できている。 課題： 現状の高い進路実現率を維持しつつ、多様化する学生のニーズや業界動向を的確に捉え、キャリア支援体制をさらに柔軟にアップデートしていく必要がある。
3. 学生の受入れ・学生支援	1. 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	現状： 入学者の受け入れ方針や選考基準を明確に定め、募集要項等で広く明示している。また、基準に基づき極めて公正かつ厳正な選考を実施している。 課題： 現在の公正で透明性の高い選考体制を維持しつつ、社会情勢や多様化する受験生のニーズに合わせ、選考方法や基準を定期的に検証・見直す必要がある。
		学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注：外国人留学生キャリア形成促進プログラム】【注：修学支援新制度機関要件の確認】	2	現状： 入学定員に基づき、適正な学生の受入れを概ね実施している。留学生プログラムや修学支援新制度の機関要件も満たし、適切に定員を管理できている。 課題： 定員管理は概ね適切だが、志願者の変動に応じた精緻な募集計画が必要である。各種制度の要件を継続して満たすため、より厳密な定員管理体制を構築する。
	2. 自主的な学習の促進に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	現状： 学生の学習状況を的確に把握し、入学前教育や補習等を手厚く実施している。シラバス活用や自主学習への支援も充実しており、高い学習成果を上げている。 課題： 現在の充実した支援体制を維持しつつ、多様な習熟度やニーズに合わせ、ICT等を活用したより個別最適化された学習・指導環境の整備を図る。

学校法人D o t 学園 京葉介護福祉専門学校 R7年度自己点検評価 (2026年3月24日実施)

(評価: 適切・・・3、概ね適切・・・2、不適切・・・1)

大項目	小項目	評価の基準・内容	自己点検評価	現状と課題
	3. 多様な学生に対する支援	適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。	2	現状： 留学生や社会人経験者など多様な学生への支援体制を構築し、概ね対応できている。一方で、障がいのある学生の受け入れ実績はまだ少ない状況である。 課題： 今後、障がいのある学生の円滑な受け入れに向け、教職員の対応スキルの向上など、より手厚い支援体制を構築していく必要がある。
	4. 学生生活に関する支援	カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	2	現状： 相談室の設置や教職員による対応体制を構築し、適切に運営している。一方で、専門的な知見を持つ専任カウンセラーは現在未配置である。 課題： より複雑化する学生の心理的な悩みに対応するため、外部の専門機関と連携した相談体制の構築を検討する必要がある。
		留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	2	現状： 定期的な個人面談を実施し、留年や退学等、学習継続に困難を抱える学生を早期に把握して、一人ひとりに寄り添った適切な対応と支援を行っている。 課題： 現在の充実した面談体制を維持しつつ、学生の経済的・心理的な問題の複雑化に備え、教職員間の情報共有と対応スキルの更なる向上を図る必要がある。
		学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	現状： 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康を支える管理体制を整備している。定期健康診断等の実施を含め、適切に運用できている。 課題： 現在の良好な健康管理体制を維持しつつ、学生のメンタルヘルスなど多様化する健康課題に備え、教職員の研修や関係機関との連携をさらに強化する必要がある。
		学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	現状： 奨学金や修学資金の手続きのサポート、学費の分納対応などの経済的支援体制を整備し、ガイダンス等で学生へ広く周知している。また、希望者に対して適切かつ迅速な運用が図られている。 課題： 現在の充実した支援体制を維持しつつ、物価高騰等の社会情勢の変化に伴う経済的困窮に備え、より早期に支援情報を的確に届ける周知方法を継続して検討する。
		学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	現状： 学生のキャリア形成や就職活動に向けた支援体制を構築し、ガイダンス等で早期から周知徹底している。個別の手厚いサポートにより適切に運用されている。 課題： 現状の充実した就職支援体制を維持しつつ、刻々と変化する業界の採用動向や学生の多様なキャリアニーズに合わせ、より個別最適化された支援を継続する。
4. 教育実施組織・教員	1. 教員の配置、募集、採用	教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	2	現状： 教育課程の実施に必要な資格や要件を満たす教員を確保するため、明確な採用基準を整備し、それに則った適切な教員採用と配置を概ね実施できている。 課題： 専門性の高い優秀な教員を安定して確保するため、業界の最新動向や教育手法の変化に合わせて、採用基準や求める教員像を定期的に見直す必要がある。
		教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3	現状： 教員の年齢構成や担当授業時数を的確に把握している。また、個々の専門性や教授力についても定期的に把握・評価できている。 課題： 現在の適切な把握・評価体制を維持しつつ、評価結果を効果的な教員研修（FD）へさらに直結させ、学校全体の教育力を継続的に向上させる必要がある。
	2. 教員の組織編制等	学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	3	現状： 学校の目的に応じた分野ごとに適切な教員組織を整備し、規程等で業務分担や責任の所在を明確に定めている。組織として円滑かつ適切に機能している。 課題： 現状の明確な組織体制を維持しつつ、教育環境や社会のニーズの変化に合わせて、規程や業務分担を定期的に見直し、組織の機動力をさらに高めていく。
	教員間で連携、協力体制を構築していること。	3	現状： 教員間での情報共有や意見交換が定期的に行われており、授業運営や学生指導において緊密な連携と協力体制が構築され、非常に有効に機能している。 課題： 現在の良好な協力体制を維持しつつ、ICTツール等をさらに活用して業務の効率化や迅速な情報共有を図り、連携の質をより高めていく必要がある。	

学校法人D o t 学園 京葉介護福祉専門学校 R7年度自己点検評価 (2026年3月24日実施)

(評価: 適切・・・3、概ね適切・・・2、不適切・・・1)

大項目	小項目	評価の基準・内容	自己点検評価	現状と課題
	3. 教員の資質の向上	学校の教育活動の改善、工夫を行うFD (Faculty Development) などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	2	現状: 教育活動の改善に向けたFD研修を定期的に実施し、教員の研究活動や自己啓発に対する一定の支援体制を整え、概ね適切に機能している。 課題: FD活動をより実践的で体系的なプログラムへ改善する必要がある。また、教員が自発的に研究や自己啓発に取り組めるよう支援をさらに拡充する。
5. 教育環境	1. 教育環境の整備	教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	2	現状: 教育課程の実施に必要な施設、設備、機械器具等は概ね整備されており、日々の授業や実習において大きな支障なく運用できている。 課題: 現状の設備は維持されているが、業界の最新技術に対応した機器への更新や、老朽化した設備の計画的なメンテナンス体制の強化が求められる。
		学生の学習支援のための施設 (自習室等) を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	3	現状: 図書室や空き教室、オープンスペースの開放などに加え、休憩や食事のためのスペースも十分に確保されている。学生がキャンパス内で快適に過ごせる環境が整っている。 課題: 現在の良好な施設環境を維持しつつ、学生の利用状況やニーズを定期的に把握し、より利便性の高い設備への更新やスペースの有効活用を継続して図る。
		図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	2	現状: 図書室を設置し、専門書や参考図書を配架して学生が閲覧できる環境を整えている。教育上必要な基本的な文献については概ね揃えられている。 課題: 現在の蔵書を維持しつつ、業界の最新動向を反映した専門書の補充を計画的に進める必要がある。また、学生の利用率を高めるための工夫が求められる。
	2. 安全対策、防災組織	学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	現状: 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、校内の点検や防犯対策を適切に実施している。学生の安全確保に向けた基本体制は整っている。 現在の安全対策を維持しつつ、非常時を想定した教職員の組織的な対応訓練をさらに強化し、学生の安全意識を高めるための啓発活動を継続する必要がある。
		火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	3	現状: 火災や災害に備えた自衛消防組織等の体制を整備し、定期的な避難訓練や設備点検を適切に実施している。緊急時の責任所在も明確であり、良好に運営されている。 課題: 現在の高い防災意識と組織体制を維持しつつ、災害の多様化に備えてマニュアルを適宜更新し、全学生・教職員が迅速に行動できるよう、更なる訓練の充実を図る。
	3. 施設・設備等の点検、改善等	施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	3	現状: 施設・設備等の日常点検および定期点検を計画的に実施し、不具合の早期発見と迅速な補修を行っている。安全で快適な教育環境が常に維持されている。 課題: 現在の高度な管理水準を継続しつつ、中長期的な修繕計画に基づき、老朽化への事前対策やエネルギー効率の向上を視野に入れた設備更新を検討していく。
施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。		3	現状: 施設の改築や設備の更新に関する中長期計画を策定し、予算措置を含め適切に実施している。教育環境の質を維持するための計画的な投資が図られている。 課題: 現在の着実な計画遂行を継続しつつ、省エネルギー化など、社会的な要請に応じた付加価値の高い施設改善を柔軟に取り入れていく。	
6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1. 中期事業計画と財務基盤	当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	現状: 法人が策定した中長期計画に基づき、教育目的や目標の実現に向けた具体的な施策が各年度の事業計画に反映されている。組織全体で着実に実行・管理されている。 課題: 現在の実効性ある計画推進を継続しつつ、社会情勢の変化や教育ニーズをより迅速に計画へ反映させるため、定期的な進捗評価と柔軟な見直し体制を強化する。
		当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	3	現状: 学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な自己資金を保有し、健全な財務基盤を確立している。適正な予算編成と執行管理が徹底されている。 課題: 現在の安定した財務状況を維持しつつ、将来の教育環境の変化や施設の老朽化に伴う大規模修繕に備え、さらなる経営効率の向上と資金計画の精緻化を図る。

学校法人D o t 学園 京葉介護福祉専門学校 R7年度自己点検評価 (2026年3月24日実施)

(評価: 適切・・・3、概ね適切・・・2、不適切・・・1)

大項目	小項目	評価の基準・内容	自己点検評価	現状と課題
	2. 学校運営	学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む）。	3	現状： 学校運営の組織体制が規程に基づき整備され、職業教育の企画から運営に至るマネジメント責任体制が明確化されている。組織全体で円滑な運営が図られている。 課題： 現在の安定した運営体制を維持しつつ、教育ニーズの高度化や社会情勢の変化に迅速かつ柔軟に対応できるよう、意思決定の迅速化と組織の機動力をさらに高める。
		学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	現状： 自己点検・評価および学校関係者評価を定期的に実施し、その結果と改善状況をホームページ等で広く公表している。PDCAサイクルが組織的に機能している。 課題： 現在の適切な情報公表体制を維持しつつ、評価結果に対する改善策の進捗をより分かりやすく可視化し、関係者への説明責任をさらに果たす必要がある。
	3. 学校評価の実施と改善活動	学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	3	現状： 学校関係者評価委員会等を定期的に開催し、企業や地域社会からの提言を教育課程や学校運営の改善に反映させる体制が適切に機能している。 課題： 現在の良好な外部連携を維持しつつ、得られた意見をより具体的かつ迅速に現場の教育活動へ還元し、その改善結果を次回の委員会で詳細に報告する循環を強化する。
		学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	3	現状： 学校評価の結果を真摯に受け止め、抽出された課題に対して具体的な改善計画を策定し、組織全体で継続的に取り組んでいる。改善状況の検証体制も確立されている。 課題： 現在の実効性ある改善プロセスを維持しつつ、改善策の実施が学生の満足度や学習成果にどのような影響を与えたか、より定量的・客観的な分析手法を導入していく。
4. 社会からの理解と情報の公表	当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	2	現状： 学校の教育活動や学修成果、運営状況等の情報をホームページ等で積極的に公表している。法令遵守のみならず、情報の透明性を高めるための公開体制を構築している。 課題： 現在の積極的な情報公表を維持しつつ、入学希望者や保護者等にとって、より理解しやすく直感的に把握できる見せ方の工夫を継続的に検討する。	